

**令和6年度 日本大学経済学部 総合型選抜
資格取得者を対象とした論文による選考 第一次選考審査（小論文A）の講評**

日本大学経済学部

このたびは、日本大学経済学部の総合選抜型<資格取得者を対象とした論文による選考>にご出願いただきありがとうございました。

「エントリーシート」及び「小論文A」について選考の結果、次のとおり講評致します。
なお、ご質問には一切応じかねますのでご了承ください。

「エントリーシート」講評

「エントリーシート」の審査においては、次の点を中心に評価を行った。

1. 「日本大学経済学部」に対する志望動機が明確に説明されているか。
2. 取得した資格を大学での学修や将来にどう活かそうとしているか。
3. 卒業後のキャリアに関する考え方がしっかりしているか。
4. 上記のキャリア展望に基づいて、入学後の学習計画が立てられているか。

以上4点について、具体的かつオリジナリティのあるものには、高い評価を与えた。

また、上記の4つの点が適切に関連付けられていることも高い評価の条件とした。

各人のこれまでの経験から具体的な卒業後のキャリアが示されているものが多く、入学後の学修内容なども本学部のカリキュラムを調べた上で明確にされているものが多く見られた。特に、これまでの経験を基に自身の意思を述べ、それを達成するために、これから必要なことや将来の展望が論理的かつ明瞭に説明されているものには、高い評価を与えた。一方、本学及び本学部への志望動機が必ずしも明確ではないものも少なからず見られた。

また、取得した資格と入学後の学修・キャリアとの関連が明確ではない、または内容に一貫性が見られないものもあり、評価を低くせざるを得なかった。

「小論文A」講評

採点評価基準

本年度の第一次選考(小論文A)では、高年齢者の就業実態、及び国と企業による高年齢者の就労を促す取り組みについて論述してもらった。本課題の評価にあたり、理解力、文章表現、論理的整合性にポイントを置きつつ、以下の点を重視した。

- ① 高年齢雇用者が近年増加している背景について、課題で求められたとおり、国、企業、

及び高年齢者それぞれを主体として論述がなされているか。

- ② 高年齢者の就労を促す国と企業の支援の在り方について、企業と高年齢者それぞれが抱える課題とニーズを考慮しながら論述がなされているか。
- ③ 課題で提示された参考文献に加え、他の関連図書・資料を読み込み、内容を理解したうえで論述に活用しているか。
- ④ 使用した参考文献の引用方法は適切であるか(例えば、文献リストを作成しているか、図書・資料から図表を引用する場合にはその箇所のページ数が記載されているかなど)。

提出された小論文の講評をまとめると以下のとおりである。

評価ポイント①について、受験者の多くは課題を適切に理解し、参考文献のデータを用いながら高年齢雇用者が近年増加している背景を説明出来ていた。特に、少子高齢化に伴う財政的な課題を抱える国、人出不足を抱える企業組織、長寿化に伴う将来の生活設計に不安を抱える高年齢者といった、3者の事情が絡み合っている側面を正しく理解した論述が多かった。その一方、政府が高年齢者の就労を積極的に後押ししてきた背景についてまったく触れていないなど、求められた課題を十分理解していない解答も散見された。これらについては減点の対象とした。

評価ポイント②に関して、就労とは労働者と雇用する企業双方のニーズがあって成り立つ関係性であることを踏まえて論述する必要があった。このことを十分に理解して論述に反映させた少数の解答は好印象であり、高く評価できた。他方、受験生の多くは、自身の提案する政府の施策や企業の取り組みについて、その内容を説明するに留まり、なぜそれらが効果的であるのかという説明を欠いていた。論拠が欠けた提案は説得力が乏しいため、高い評価をつけることは出来なかった。

評価ポイント③及び④に関して、本年度の受験生の多くは、課題で提示した参考文献以外の資料を多数引用したり、独自のアンケート調査を行うなど、事前調査を入念に行っていた。このような課題に取り組む姿勢は高く評価するものの、資料の内容を正しく理解しないままの論述も散見された。例えば、ジョブ型雇用制度は、高年齢者の雇用を促す企業の取り組みの一つと考えられたかもしれない。しかしジェネラリストとして育成された多くの高年齢雇用者達にとって、専門性が求められるジョブ型雇用制度は親和性が高いと言えない。また、外部労働市場が十分に発達していない我が国においては、ジョブ型雇用制度がむしろ雇用の不安定化をまねく等、制度の導入には大きな課題があると言えよう。このように、自身が参照する書籍等については内容を理解したうえで、課題解決の実現性にも触れつつ論述してほしい。

その他，課題で記載例を示していたにもかかわらず，誤った形式の文献記載がなされたり，文字が小さく読み取ることが困難な図表を使用した解答があった。こういった形式上の問題についても減点の対象とした。

総合的に高い得点を目指す場合には，最終的な結論を導く前に，課題が求めている内容がすべて充足できているかどうかを丁寧に確認するとともに，自身の展開する論述の説得性や実現性についても十分に検討したうえで，小論文を作成することが不可欠である。

以　上